

平成 27 年度 東京支部総会報告

1. 開催状況

日時： 2015 年 6 月 26 日（金）

第一部 総会・講演会 16：00～17：40

第二部 懇親会 18：00～20：00

場所： 日立目白クラブ（東京都新宿区下落合 2-13-28）

出席者数： 総会 93 名、懇親会 96 名、全体 99 名

京都からご出席いただいた以下の先生方を含む。

東谷 公 京都大学名誉教授・洛窓会会長

山本 量一 京都大学教授（2015 年度専攻長）

大嶋 正裕 京都大学教授

長谷部 伸治 京都大学教授

前 一廣 京都大学教授

2. 総会

1) 洛窓会東京支部長挨拶

サントリーホールディングス（株）専務取締役（36 回卒）小嶋 幸次 様

総会開会の挨拶とともに、本年度総会参加への謝意を述べられた。また、日本企業のグローバル展開の活発化により国家の税収が増加していること、日本企業のものづくりの力の向上がこの企業のグローバル展開を支えていることに触れられた。加えて、産学官交流を深め日本のものづくりを活発にするための場として洛窓会を活用して欲しいことを述べられた。



2) 講演会

① 「鉄鋼におけるプロセス解析への化学工学的アプローチ」

新日鐵住金株式会社 顧問（36 回卒）高谷 幸司 様



入社以来、一貫してプロセス解析に関する研究に従事されており、今回は高炉の数学的モデリング、最近の混相流解析における話題、化学工学への期待などについて御講演をいただいた。

高炉は世界最大の反応容器とも呼ばれ、プロセス解析により高炉の反応や流れの効率を上げること、寿命伸ばすことによる経済的効果が大きい。この解析には実験で取ったパラメータをもとに構築した解析モデルを用いるという、化学工学的アプローチが重要であることを述べられた。また、高炉は気、液、固、粉体からなり、さらに 35 の成分で 32 の反応が起こる複雑系であり、このような系におけるモデリングの難しさや、精度を上げるために行ってきた取り組みなどをご紹介いただいた。最後に、高炉のモデリングではマイクロとマクロの現象をつなぐことのできる化学工学が非常に重要であることを挙げられ、尽きない情熱で話を締めくくられた。

② 「ひとりの大学教授（教育者・研究者・研究科執行部委員）の現実と夢 ～ 停年まであと10年のいまどきの大学教授は・・・」

京都大学 大学院工学研究科 化学工学専攻 (41回卒) 大嶋 正裕 教授

研究者、化学工学教室の教育者だけでなく、研究科執行部委員を担当している大嶋先生より、執行部員としての取り組みや、最近の学生について感じたことなどをご講演いただいた。

研究科執行部委員として担当された業務内容やその苦勞についてご自身の心の葛藤を交えてご紹介いただいた。また、研究科執行部委員として学生と触れ合う中で、大学のグローバル化、自殺学生の増加対策などについて感じられた問題点や改善方法などについてご解説いただいた。時間の関係でご自身の研究への情熱についての資料には簡単に触れるに留まってしまったのが残念であったが、最後に、優秀な学生に対する論文賞を作るための協力依頼、工学研究科への寄付の依頼などで締めくくられ、学生に対する大嶋先生の想いを垣間見ることのできるご講演であった。



3) 京都大学と化学工学教室の近況

京都大学 大学院工学研究科 化学工学専攻 山本 量一 教授



京都大学全般と化学工学教室の現状について、入試制度、工業化学科のコース配属状況、就職状況といった観点から詳細な説明をいただいた。また、新しい京都大学総長の紹介、様々な大学ランキングと京都大学の評価のご解説、最近の化学工学教室が学生の間で人気であることなどについてもご紹介いただいた。最後に、10月24日に吉田キャンパスにて化学工学教室創立75周年記念講演会、祝賀会への出席依頼を述べられた。



総会の様子

3. 懇親会

東谷 公 会長： 挨拶ならびに乾杯
前 一廣 化学工学会会長： ご挨拶
川端 達夫 衆議院副議長： ご挨拶
齊藤 傑： 代表幹事会社挨拶
折田 伸昭 様： 次回代表幹事会社挨拶

洛窓会会長の東谷先生のご挨拶で開会した。暫く歓談の後、川端衆議院副議長よりご挨拶をいただいた。その後幹事会社代表として日揮の齊藤から挨拶し、さらに次回幹事会社 古川電気工業株式会社 折田 伸昭 様よりご挨拶をいただいた。昨年同様、東洋エンジニアリング株式会社の村上菜穂子様のピアノ伴奏により、恒例の琵琶湖周航の歌を合唱し、お開きとした。



洛窓会会長 東谷様



懇親会の様子

4. 総評

昨年度に引き続き、総会 93 名、懇親会 96 名と会場が狭く感じられるほど多数の方々にご参加いただいた。また、17 回卒から 74 回卒まで幅広い年齢層が集い、特に 2001 年卒以降の若手～中堅参加者で全体の 1/4 を占めた。前回同様、若手が集える会を目指して 2007 年以降の卒業生の参加費を ¥5,000 (2006 年以前の卒業生は ¥7,000) に設定させていただいたこともあるのか、若手参加者は 15 名となり、その目的は達せられたものと考えている。今回のこの実績が達成された要因としては、ご講演内容が会員の興味を惹く内容であったことと、一昨年からの取り組みから一歩進んで本部名簿システムによる一斉電子メール機能を中心とした案内に切り替えるとともに、出席予定者名簿を中間報告として公開したことが要因と考えている。

来年度以降も、魅力的な講演内容、本部 HP や名簿システム利用での宣伝活動、参加費の工夫などで、より多くの方々に参加していただけるような支部総会としていきたい。

5. 会計報告

支部総会会場に関して、昨年度に引き続き今年度も日立製作所幹事の御計らいで趣のある会場を無料で確保できたため、予算的にはかなり余裕が持てた。例年会場選定が会計収支を大きく左右するため、幹事は様々な情報を収集し黒字運営に努めたい。また、上記の若手参加費低減企画も含み、本部助成金を有効に活用していきたい。

6. 最後に

支部総会開催にあたり、遠路ご参加を賜りました東谷先生、長谷部先生、前先生、大嶋先生、山本先生には、心よりお礼を申し上げます。また、支部総会開催には、長谷部幹事長ならびに本部庶務・会計・名簿幹事の長嶺先生・田中先生・殿村先生、支部幹事会社代表の方々には多大なご助力・アドバイスを頂戴しました。感謝いたします。